

入居者インタビュー

『安心の下に趣味に生きる幸せ』

田島 祐子様（70歳）



田島様は、三人娘の末っ子。満州で生まれ1歳で終戦を迎えました。軍人であったお父様が戦死。お母様は命がけて三人の子供を抱え、満州から引き揚げて来られました。

〈最愛の母が認知症に〉

母は独身時代、服飾デザイナーでしたので、戦後もオートクチュールのお店を構えて働किながら女手一つで子育てをし、父親の分まで愛情を注いでくれました。その母が80歳を過ぎた頃から徐々に認知症状が出はじめ、木更津の実家で介護生活を送るようになりました。少しでも母の役に立ちたいと、優しい夫に支えられながら、月に2回4、5日泊りながら母の話相手にと通い続けました。母は92歳で亡くなりましたが、自分の意思を伝えられなくて、どんなに辛か



ただだろう...と今でも思いだされます。

〈辛い時に趣味が私を助けてくれた〉

ある本に「趣味を持つ大切さ」という内容があり、くぎ付けになった、それから、新日本舞踊、カラオケ、ゴルフと多くの趣味を持つようになりました。そんなある日のこと、最愛の夫が突然亡くなってしまいました。ショックは大きく、辛い日々を過ごしていた時に、ゴルフの友達が励ましてくれました。大好きな歌にも勇氣と元氣をもたらしました。趣味に熱中すると「嫌なことは忘れてまた明日か

ら頑張ろう」という気持ちになりました。様々な趣味を持っていたことで友人にも恵まれ、辛い時期を乗り切ることができました。



「田島さんは、お稽古を楽しんでいます。熱心で意欲があるので、上達が早いです」日本舞踊の先生より

〈老後は自分で選びたい〉

私は母の様に認知症にはなりたくないと思っています。子供もいないので、生涯安心な生活が送れて、今の趣味が続けられる事を条件に施設を探しました。「まだ若いのになんで？」と周りの人達に言われましたが、若いからこそやりたい事が何でも叶う、楽しみたいから今がいいのよ。頭も体も使った趣味を続けて、残りの人生を悔いなく暮らしたいと思って67歳で入居を

決めました。

〈安心の下に趣味に生きる幸せ〉

卓球・グラウンドゴルフ・カラオケ・ラウンドダンス・新日本舞踊と、好きなことを好きなだけ楽しんでいきます。踊りのお稽古の時に、膝や腰が痛い時もあるけれど、先生の前では弱音を言いません。休まないで行くことが進歩に繋がるから、健康食品と整骨院に通いながら頑張っています。カラオケもただ歌うのも楽しいけれど、大会に出場して賞を取りたいと練習しています。上達する楽しさが若々しくいられる秘訣かな(笑)仕方なく、とかではなく、楽しければそれが最高の人生になる、と信じています。



「素直な生徒さんですね。目標をもつ事は素晴らしいです」カラオケの先生より

深刺と
した田島
さんこれ
からもお
元気で楽
しみ続け
て下さい。